

NPO法人グローバルリーダーシップ・アソシエーション(GLEA)のメールマガジン第183号をお届けします。ご意見・ご感想は<glea@npo-glea.org>まで。

◆今号の内容

1. トピックス
2. 最新の活動情報
3. コラム『リーダーシップの4つの誤解に挑戦する』大阪大学特任教授 野村 美明 氏

1. トピックス

- ◆「ハーバード流交渉術」研修を開催しました。
詳しくは<2.最新の活動情報>をご覧ください。

2. 最新の活動情報

- ◆「ハーバード流交渉術」研修
日時:2月14日(金)14:00~17:00
会場:TKPガーデンシティPREMIUM東京駅日本橋
講師:野村 美明
内容:交渉の基礎についての講義とロールプレイング(法人会員向け)
参加者数:83名(リアル参加者45名 オンライン参加者38名)

参加者アンケートでは、「とても参考になった」(20%)「参考になった」(47%)との回答があり、「WIN-WINの考え方や交渉の基本的な考え方を学べた」「クライアントのニーズとウォンツを見極め、利益を把握することの重要性を学んだ」「異なる立場や価値観の違いを理解し、尊重することの大切さを認識した」等、多くの感想が寄せられました。

3. 今月のリーダーシップ情報 【コラム/column】

大阪大学特任教授
野村 美明 氏(当法人理事長)

『リーダーシップの4つの誤解に挑戦する』

大阪大学のグローバルリーダーシップ・プログラム(<https://www.osipp.osaka-u.ac.jp/leader/>)

(「GLP」)は、学生がリーダーシップを学べる授業をいくつか提供している。そこで共通に用いている「共通テキスト」は、過去16年にわたるGLPの授業の多様なゲストの体験談や参加者の成功・失敗例(実践知)を整理し、理論的に裏付けたものだ。

共通テキストは、リーダーシップに関する4つの誤解に挑戦することを授業の最小限の目標に掲げている。1つ目は「リーダーシップは学べない」という誤解。2つ目は「教室と社会は違う」、3つ目は「リーダーシップはトップのもの」、そして最後は「リーダーシップは人格だ」という誤解である。

リーダーシップのように社会的に価値ある行為でも、複雑で理解しにくいものがある。昔からこれを「学べない」と諦めてしまうことが多かった。アリストテレスが「倫理」も習慣づけで身につけられると言ったのが参考になるだろう。日本では少し前まで「交渉」も学べないといわれてきたが、今では交渉を学んだ人材が色々なところで活躍している(大学対抗交渉コンペティション 20周年記念誌の審査員や参加者の体験談を参照(https://www.negocom.jp/pdf/upload/INC20_digital_A4.pdf)。)

2つ目は、就活でリーダーシップの授業を受けたという学生に対して面接担当者が少し上から目線で言いそうなことだ。しかし、実は教室は多様な価値や考え方の学生が集まっていて、社会のマイクロコスモスとも言える。教室で学んだことは社会でも応用できるのである。

3つ目が誤解であることは、最近の兵庫県知事や欧米の政治のトップを見ればわかる。この誤解は、トップにリーダーシップがあればいいのにと願望の裏返しとも言える。

最後の誤解も、偉そうな上司が言ったら、この人にだけは言われたくないと言われたいと影で突っ込まれそう。この誤解が根拠のないことは、人格者が必ずしもリーダーシップを発揮できていない社会の現実からも直感的に理解できるだろう。

リーダーシップはビジョンや信頼、コミュニケーションや自利利他など一つ一つが機能をもった行為のモジュールが統合されたものである(統合型リーダーシップ理論)。統合された全体を見ればとても学べないとか人格だとかと片付けてしまいそうになる。しかし、モジュールごとに、さらにそれを分析して「行為」のレベルまで分解すれば、練習できるようになる。

大阪大学のGLPのようなリーダーシップを学ぶ場が増えていけば、4つの誤解はリーダーシップを学び続ける若者たちの実践によって解消されていくだろう。

=====

発行元: NPO法人グローバルリーダーシップ・アソシエーション

発行責任者: 野村 美明

(HP) <https://npo-glea.org/>

(TEL) 070-6560-2633